

がんセンターたより

神奈川県立がんセンターは
平成25年11月2日(土)に新病院へ移転します。



新病院移転に向けて 総長 赤池 信

平成25年8月1日、新がんセンターの建物についてPFI事業者の大林組との間で受け渡しが完了し、神奈川県立病院機構の所有となりました。2年間の建築工事が終了し、いよいよ11月の開院に向かって本格的な始動となります。新がんセンター開院については、県民の方たちの注目度は益々上がってきており、私達の責務は重大であります。皆さんには新病院の見学をすませてもらっているのでしょうか？今まではイメージの中で業務の構築をしてきましたが、実際の広さ、配置と動線の確認を是非お願いしたいと思います。これから医療機器、備品の搬入と設置が行われ、開院と同時に病院機能を十分に発揮する目的でこれから何回ものリハーサルを実施します。円滑に運営することにより、がんセンターで働く全職種の全職員が楽しく笑顔で働くことを目標にしたいと思います。よろしくお祈りします。(I!I!オー！)

2年以上の病院施設建築工事期間が終了し、PFI事業者である神奈川メディカルサービスより、神奈川県立病院機構へ引渡されました。



新住所

〒241-8515
横浜市旭区中尾二丁目3番2号
TEL. 045-520-2222(代表)

新がんセンターでは、患者支援センターに窓口を一元化し、患者さんに優しく質の高い医療を提供します。

患者支援センター

受付時間 8時30分から17時15分

初診予約	TEL. 045-520-2210(直通)
セカンドオピニオン予約	TEL. 045-520-2210(直通)
	FAX. 045-520-2215(直通)
医療相談	TEL. 045-520-2211(直通)

受付時間 14時から16時

再診予約変更	TEL. 045-520-2220(直通)
--------	-----------------------

移植後フォローアップ外来

B棟7階 平野 弘美

がんセンターでは1985年から同種造血幹細胞移植が行われ、これまでに血液内科および腫瘍内科で同種移植を受けられた患者さんは500人を超えています。当初は白血病を治すことだけを目標としていた移植治療ですが、現在では移植後の長期生存者の増加に伴い、慢性GVHD（移植片対宿主病）重要臓器の合併症、生活習慣病、二次性腫瘍等の管理が問題になってきました。同種移植後の患者さんは、免疫抑制状態の遷延や慢性GVHDのために長期にわたって日常生活に影響する何らかの症状を抱えている場合が多くあります。GVHDは、皮膚、

眼、口腔粘膜、呼吸器などの臓器に発症し、生命や原疾患に影響がない場合でも症状は長期化し、患者さんやご家族のQOLを低下させる原因となります。患者さんにご家族には、日常生活上のセルフケアや症状コントロール方法、社会生活に適応するための支援が必要になります。このような患者さんを外来でケアしていくためには専門性の高いチーム医療が求められ、2012年4月から造血幹細胞移植後患者指導管理料（300点：月1回）が新設されました。当センターにおいても移植後患者さんのQOLを図るために、医師・看護師・薬剤師で編成したチームを立ち上げ、同種移植患者さんのフォローアップ外来を、昨年11月より開設いたしました。フォローアップ外来は、5年以上の移植経験があり学会の研修を受け認定された3名（9月より4名）の看護師が交代で担当しています。現在、週1回（木曜日または金曜日）の午前中に予約制（3名まで）で行っています。開始から8月末までに延べ83名の患者さん・ご家族がフォローアップ外来の支援を受けました。退院後早期は、皮膚や口腔内の変化のほか、食べられない、体力が回復しないといった相談が多く聞かれます。退院後も免疫不全状態は続いており、継続した感染予防が必要です。退院時のオリエンテーションを各々の生活スタイルに合わせて具体化すること、



個々の症状に対する対処をするためのセルフケア支援が必要になります。移植後1年以上では、皮膚の乾燥やこわばり、口腔内の唾液の減少や口内炎、眼の乾燥などの眼症状、階段昇降における息切れ、性器の乾きや痛みなどの症状がみられます。これら慢性GVHD症状以外にも、毛髪に関することや体力低下、ホルモン補充療法による副作用や他科受診の方法、予防接種に関する相談など内容は多岐にわたります。また、「いつまでもプレドニンを飲まなければいけないのか」「家族の心配が束縛にも感じる」「正規雇用が難しい」「周囲に病気のことを理解してもらえない」などの声も聞かれます。開始からわずか10ヶ月ではありますが、移植後の患者さんはGVHD症状を始め、様々な

問題に直面しており、それらの問題を解決し日常生活を再構築していくための支援が求められていることがわかりました。今後も、移植後の経過に応じたより質の高い支援を提供し、栄養科、理学療法士など他職種との連携体制も構築していきたいと思っております。引き続き皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



*GVHD（graft-versus-host disease, 移植片対宿主病）

移植された骨髄中のリンパ球が患者さんの身体を異物として認識し、免疫学的に攻撃するのが移植片対宿主病（GVHD）という反応です。GVHDには移植後早期に発症する急性GVHDと移植後3カ月以降に発症する慢性GVHDがあります。急性GVHDは皮膚、消化管、肝臓の3つの臓器が標的となり、それぞれ皮疹、下痢、黄疸が主症状となります。一方、慢性GVHDは皮膚、口腔、眼球結膜、肺気管支、肝臓、消化管など全身の臓器や組織に病変が起こり、膠原病と似た状態となります。長引くことが多く、日常生活にも支障をきたすことが多い合併症です。

American Society of Clinical Oncology

ASCO Annual Meeting 2013 に参加して

第26期レジデント 原田 大司

薬剤科 戸津 舞衣子

去る5月31日から6月4日まで、アメリカ・シカゴのマコーミックプレイスにてASCO Annual Meeting 2013が開催されました。呼吸器内科のレジデントとしてGeneral Poster Sessionで演題『The Usefulness of UGT1A1 Polymorphism Testing Before Starting Chemotherapy』を発表する機会をいただき、呼吸器内科の齋藤春洋先生、村上修司先生と一緒に学会に参加させていただきました。

英語が苦手なのでとても緊張しましたが、発表自体は特に困るような質問もされず無事に終了しました。



がんの分野では世界一の学会であるASCOのAnnual Meetingで世界に名だたる有名大学、病院の先生方と並んで発表させていただいたことはとても大きな経験となりました。

今年もやはり話題の中心は分子標的薬で、特に分子標的薬を使用する際のKeyとなる遺伝子異常を同定するための検討が多く行われていました。また、従来の殺細胞性抗がん薬の使用に加えて分子標的薬の併用や増悪後の継続など、また違った戦略が多く議論されており、今後のがん薬物療法はさらに多様化、複雑化していくと思われ、患者さんにとってより良いがん治療のために更なる研鑽が必要だと強く感じました。

シカゴの街は歴史ある建造物と高層ビルが立ち並びとても美しく、本場のステーキはやはりアメリカンサイズで食べ応え十分でした。

また、帰りの成田空港の荷物受取場では偶然にも俳優の藤岡弘さんに遭遇し握手していただきました。

いろいろとよい経験ができたので今後の診療に反映できるよう努力していく所存です。

2013年5月31日から6月4日にアメリカのシカゴのマコーミックプレイスで行なわれたASCO Annual Meeting 2013(米国臨床腫瘍学会)に薬剤師として初めて参加させていただきました。日本では様々な学会に参加したことはありましたが、初めての国際学会ということもあり、とても緊張していました。そのせいで出発前日はほとんど眠ることができませんでした。

実際に会場につくと会場の大きさと参加人数の多さに圧倒されてしまいました。会場の大きさは東京ビッグサイトの3倍であり、会場間の移動も大変でした。また、会場のあちらこちらに人がたくさんおり、様々な国の人がいることで、国際学会をさらに実感しました。実際、学会の発表内容は多岐にわたりました。各疾患の治療に関する発表だけでなく、副作用対策などの支持療法や公衆衛生、医療者の教育方法などいろいろな視点からがん治療の質を向上させようと世界中の人が努力しているのだと感じました。

本学会のプレナリーセッションはその年の応募した演題の中でもより選ばれた

演題が採択されるものです。全世界から注目される発表だそうで、数千人が入る会場が満席になる状態でした。発表内容は治療法だけでなく、検診の有用性を調べた発表などもあり、拍手の大きさにびっくりしてしまいました。中には有用性をあきらかにできなかった発表もありましたが、こういう過程も大事なことなのだと思います。

今後がん治療をより良いものにしていくにはどうしたらいいか、その中でも薬剤師としてできることはなんだろうかと考えさせられる機会となりました。今、目の前にいる患者様のために今回得られた知識をもちいてできる最善をつくしていきたいと思います。





看護の日および看護週間記念行事を開催しました

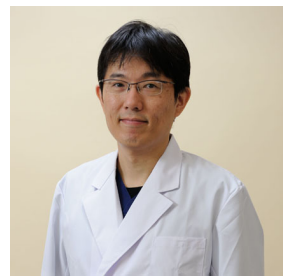
ナイチンゲールの生誕を記念する「看護週間」にちなみ、当センターでも看護について、またがんセンターについて理解を深めていただくために、毎年さまざまな行事を行っております。

今年は5月10日からの1週間、三行詩・職員紹介ポスターの掲示、薬剤師・栄養士・認定看護師による健康相談、理学療法士による運動相談、看護師によるアロママッサージ、東海大学落語研究会による落語、ボランティアによるコンサートなどを行いました。

三行詩では40作品が集まり、病気と闘う強い意志が表現されているもの、家族への感謝、職員へ向けた温かいお言葉など、作者の思いを凝縮した、読み手それぞれの心に染み込む力作でした。趣旨をご理解いただきご協力を頂きました方々に感謝いたします。（副看護局長 曾我孝子）



新任医師の紹介 よろしくお願ひします



消化器外科（胃食道）
医長
佐藤 勉

2013年6月より胃食道外科に赴任しました佐藤です。異動前の8年間は横浜市立大学市民総合医療センター及び横浜市立大学付属病院に勤務しておりました。まだ赴任したばかりで分からない事も多いのですが、がんセンターは様々な部門の専門スタッフがおり、臨床と研究に集中するにはとても良い環境であると感じています。

個人的には5歳を筆頭に3姉妹の子育てにも追われておりますが、家庭と仕事のどちらも楽しく充実させたいと考えております。皆様、色々ご指導よろしくお願ひします。

検査データシリーズ

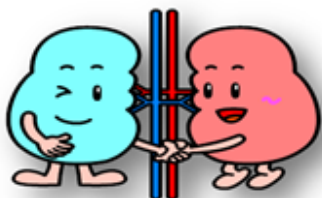
検査データについて

腎機能検査、脂質代謝検査、
電解質検査



今回は第3弾として、腎機能検査などを紹介します。参考にして下さい。

なお基準範囲は神奈川県立がんセンターで用いているもので、検査法の関係で他院とは一致しない場合がありますのでご承知おきください。神奈川県立がんセンターのホームページでも検査データを紹介しておりますので是非ご覧になって下さい。（検査科部長 丹野秀樹）



○腎機能検査○

略称	項目名	当院基準範囲	単位	解説
BUN	尿素窒素	8.0~20.0	mg/dl	体内のタンパク質が分解されたときに生じるアンモニアは有害な物質なので、肝臓で分解されてBUNとなります。BUNは腎臓で排出されるので、腎臓に障害があると血中濃度が増加します。
CRE	クレアチニン	♂0.5~1.2 ♀0.3~0.9	mg/dl	筋肉が分解されたあとに生じる老廃物です。腎臓から尿中に排出されるため、腎臓に障害があると血中に増加します。
UA	尿酸	♂3.7~7.0 ♀2.5~7.0	mg/dl	古くなった細胞が破壊されたり、食物に含まれるプリン体が分解されて生じる物質です。腎臓で排出されるため、腎臓に障害があると血中に増加します。この値が高い状態が続くと「痛風」を起こします。

○脂質代謝検査○

T-cho	総コレステロール	150~219	mg/dl	コレステロールとは体内にある脂質の一種で、血液中ではリポタンパクというカプセルに入れられて運ばれます。T-choはそのリポタンパクに含まれるコレステロールの総計です。リポタンパクにはいくつかの種類があり、HDLやLDLなどがあります。HDL-Cは動脈硬化の予防に役立つ善玉コレステロールで、LDL-Cは動脈硬化の原因となる悪玉コレステロールと言われています。TC+HDL-C+LDL-Cは動脈硬化の危険度の指針となります。
HDL-C	HDL-コレステロール	♂40~86 ♀40~96	mg/dl	
LDL-C	LDL-コレステロール	60~130	mg/dl	
TG	中性脂肪	50~149	mg/dl	余分な中性脂肪が血中に増加すると動脈硬化を進める一因となります。食事やアルコールによる影響が大きいです。

○電解質○

Na	ナトリウム	135~147	mEq/l	体の水分を調節します
K	カリウム	3.5~5.0	mEq/l	筋肉や神経の動きに関係します
Cl	クロール	98~108	mEq/l	体の水分の調節や組織に酸素を供給する役割を果たします
Ca	カルシウム	8.5~10.5	mg/dl	骨や歯の形成・神経の伝達・血液の凝固などに関係します
IP	無機リン	2.5~4.5	mg/dl	骨や歯の形成・神経や筋肉の動きに関係します。Caの値と関係があります。
Mg	マグネシウム	1.8~2.5	mg/dl	骨や歯の形成・筋肉の動き・体温や血圧の調節に関係します

サマーイベント 2013



1日看護体験



1日看護体験は、看護師になりたい方や看護に関心を持っている方を対象に、看護師の役割や仕事への理解を深めていただき、今後の進路を考える機会となることを目的として、毎年実施しています。今年度は17名の参加がありました。まずは憧れの白衣に着替えて記念写真、その後2名ずつに分かれて、病棟見学と看護師や患者さんから看護の仕事についてお話を伺いました。また新たな取り組みとして、懇

親会によこはま看護専門学校様、神奈川県立衛生看護専門学校様をお迎えして、看護学校の紹介をしていただきました。参加者から「看護師になりたいと思う気持ちがますます強くなりました」と目をキラキラ輝かせて話してくれた事がとても印象に残りました。ご参加ありがとうございました。将来一緒に働ける日を職員一同お待ちしております。（副看護局長 曾我孝子）

ブラックジャックセミナー



開催4回目、ブラックジャックセミナーと名前を変えてから2回目のキッズセミナーが、今夏最も暑い日に開催されました。午前中に子供を連れたなじみのスタッフが、業務時とはちょっと違う顔と口調でお仕事の体験をさせ、午後には県内の中学生を中心に約30人の若人が集いました。

赤池総長、中山副院長の話に続き手術衣での記念撮影の後は、涼しい格好でセミナーを開始します。本物の針糸を使った縫合実技、内視鏡手術シミュレーター、ファイヤー発声練習、ナースのお仕事体験、超音波メスでの鶏肉切除術、放射線治療の金型作成を体験しました。最初は沈黙しがちだった子どもたちですが、すぐに笑顔と驚きの声に変わりました。食い入るように見つめる目と、真剣な顔つきがとても印象的でした。

来年は新病院で開催されます。きっと涼しいことでしょう。古くて暑い講堂でのセミナーの思い出を語る、大人になったキッズたちと現場で働く日が楽しみです。（呼吸器外科部長 伊藤宏之）

かながわサイエンスサマー行事

科学教室「染色体に触れてみよう」



昨今の青少年の「理科離れ」に対する取り組みとして、神奈川県では毎年夏に県の試験研究機関、県内の博物館、科学館、大学、企業の研究機関で科学講座や体験教室などを通して若い世代に科学に親んでもらう企画「かながわサイエンスサマー」を実施しています。がんセンター臨床研究所においても8月22日に中・高校生を対象とした科学教室「染色体に触れてみよう」が開催されました。人間はおよそ60兆個の細胞からできています。染色体はその細胞一個一個の中にあって遺伝子の本体であるDNAを保持してDNAの遺伝情報を読み出している装置で、染色体の異常はがんの原因ともなります。

参加者は中学生25人と高校生2人の27人でした。過去（メンデル）から現在（iPS細胞）に至る遺伝子・DNA・染色体研究のトピックスを紹介する講義とともに、参加者には顕微鏡による細胞や染色体の観察や题目的通り細胞からDNAを取り出す実験をしてもらい、染色体にかかわる科学を体感してもらいました。その後のアンケートの結果では、多少難しい点はあったものの全般に興味をもって楽しんでいただけたようで、将来の医学を発展させる研究者を育てる一助となればと私たちとしても実感した次第です。（臨床研究所主任研究員 菊地慶司）



新しい外来化学療法室の紹介

看護局 外来看護科

がん化学療法看護認定看護師 佐久間ゆみ

いよいよ新病院への引っ越しが近づいてきました。広く、新しい外来化学療法室で働けることを心待ちにしています。新しい外来化学療法室の患者さん1人の治療スペースは、現在のおおよそ2倍の広さでプライバシーを配慮できる環境になります。リラックスして治療を受けることができるようにソファやテレビなどのアメニティを備えました。また、抗がん剤や治療の副作用などの情報コーナーを整えていく予定です。将来的には50床の外来化学療法室になります。

患者さんが安心して治療を継続できるように、“その人らしさ”を大切に、生活の視点や価値観や家族の思いを尊重し、専門的知識と技術に基づいた看護を提供できるように努力しています。信頼され、愛される外来化学療法室を目指しています。



ベッド数が現在の24床から50床になります。

編集後記

当センターは11月2日に念願の新棟へ移転となります。10月中に管理・医局棟、図書室などの引っ越しが予定されており、慌ただしい日々の中で現病院の歴史に思いを馳せている職員も多いのではないのでしょうか。

さて、時は「今でしょ!」から、「お・も・て・な・し!」に変わりました。新病院では新しいシステムが随所に取り入れられています。新システムに振り回されることなく、私たちも「おもてなしの心」を忘れずに、がん専門病院としての役割を果たそうではありませんか。

次号からは新病院の紹介を兼ね、様々な部署を訪ねて掲載したいと思います。乞う、ご期待! (企画情報部長 金森平和)



ボランティア会ランパスによる患者さんのための 9月・10月木曜ミニコンサート予定表

時間：PM1:30 ~ 2:00 (30分前後)

9月 5日	ピアノ	相沢 里沙
9月 12日	ピアノ	山本 絵里
9月 19日	声楽	江口 正之
9月 26日	ピアノ	須田 美穂
10月 3日	声楽	茂木 遥子
10月 10日	コーラス	サーティーフォー
10月 17日	声楽	岡野 昌代
10月 24日	ピアノ	鮫島 明子
10月 31日	カンツォーネ	安井 康子



平成 25 年度 5 月・6 月・7 月・8 月

1 日平均患者数 (単位：人)

区分	5月	6月	7月	8月
入院	324.9	335.7	341.9	327.6
外来	554.2	759.5	745.0	710.0

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241 8515 横浜市旭区中尾1-1-2

TEL 045-391-5761 (内線 2510)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>